

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岐阜県立池田高等学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫※注1
☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注2 ☒ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）

所在地 〒503-2495

岐阜県揖斐郡池田町六之井 2 4 2 - 1

E-mail c27386@gifu-net.ed.jp

Website http://school.gifu-net.ed.jp/ikedahs/

生徒数 男子 203 名 女子 274 名 合計 477 名
生徒の年齢 16 歳～18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

岐阜県立池田高等学校は、「Global Welfare（地域・国際社会の中でよりよく生きる）」を学校理念として、ESD を地域と連携し活力ある学校づくりを進める力と捉え、地域に貢献し持続可能な社会を作る人材の育成を目標とした。具体的には、「福祉教育」、「国際教育」、「環境教育」を柱に教育活動を行った。

(1) 福祉教育 (Welfare education)

教育課程の中に福祉教育を位置づけるとともに、地域でのボランティア活動や、保育園・小中学校・特別支援学校・福祉系専門学校との連携による活動を通して、人を思いやる心や感謝する心など、福祉の心を育成している。

3 年の選択科目「社会福祉基礎（2 単位）」では、地域にあるサンビレッジ国際医療福祉専門学校や福祉施設の協力を得て、福祉に関わる体験的な授業を行った。また、3 年目を迎えた揖斐特別支援学校との交流学习では、7 月に 1 年生の生徒を本校に迎え、音楽と体育の授業を通して交流を深め、9 月の文化祭では 3 年生の生徒が作業製品の販売を行った。

また、ボランティア会の生徒を中心に、揖斐特別支援学校の先生をお招きしたり同校を訪問したりして、年 5 回にわたりボランティア養成講座を行った。

さらに、生徒の自主的な活動組織である生徒会や MS リーダーズ、ボランティア会による地域の清掃活動や保育園、福祉施設等への訪問等、年間を通して様々なボランティア活動を行なった。

(2) 国際教育 (Global education)

コミュニケーションを重視する授業や国際交流活動等を通して、他人と連携し協調する能力、プレゼンテーションの技術等を学ぶとともに、グローバルな視野をもって地域や国内外の課題に主体的に取り組み、地域社会の発展に貢献できる人材を育てることを目的に、様々な事業に積極的に参加した。

生徒たちは、「第 11 回岐阜県高等学校英語スピーチコンテスト」や、ライオンズクラブ主催の「第 42 回ライオンズクラブ 海外派遣高等学校英語弁論大会」、地元池田町主催の「平成 29 年度池田町教育事例発表会」に積極的に参加した。

また、池田町の支援もいただき、実用英語技能検定を年 3 回校内で実施し、資格取得を目標に語学力の向上に努めた。

その他、大垣ユネスコ協会主催の「グローバルイシューワークショップ」に参加し、外国の方々と交流を行った。また、「第 2 回ユネスコスクール ESD パスポート体験発表会 in 大垣」でも発表した。

さらに、池田町教育委員会主催の「平成 29 年度第 12 回池田町中高生海外派遣事業」に本校から 5 名の生徒と引率教員 1 名が参加した。

(3) 環境・防災教育 (Environmental education)

地域の豊かな自然環境を保護する活動を通して、自然を大切にする心を育てるとともに、地域の課題を解決するために自ら進んで取り組むことのできる能力や態度を育成している。

本校科学部は、池田町教育委員会及び岐阜経済大学森教授の指導のもと、池田町のハリヨ保存会と連携し、池田町上八幡にある湧水地において、環境省から絶滅の恐れのある個体群に選定された淡水魚ハリヨの生息調査や保護活動に参加した。

また、昨年度から家庭クラブが、ホタルが生息する東川の環境保全のため、定期的な水質調査を行うとともに、環境保全に対する意識の啓発に努めるとともに県家庭クラブ総会で研究成果を発表し高い評価を得た。



正門にユネスコスクール看板



第 12 回池田町教育事例発表会



「探求 ESD」の研究授業



ニュージーランド研修事業

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

・ユネスコスクールのホームページ

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

本校では、今年度から教育課程とＥＳＤ活動を横断的・総合的に関連させ体系化した「ＥＳＤカレンダー」を各学年ごとに作成した。具体的には、各教科が単元ごとに、本校のＥＳＤ活動の柱である「福祉教育」「国際教育」「環境・防災教育」のいずれかのテーマと関連付けて指導する年間計画を立て、それらを学年ごとに「ＥＳＤカレンダー」としてまとめ生徒に示した。昨年度は、教科の学習とＥＳＤ活動が独立したままであったが、今年度は、指導する教員も含め、ＥＳＤの理念を踏まえた教科学習を行う体勢作りができた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

持続可能な地域社会づくりの拠点となる学校づくりの観点から、地元の池田町及び池田町教育委員会と様々な行事やボランティアを通して連携を進めるとともに、地元の岐阜経済大学と大垣女子短期大学と教育連携協定を11月に締結し、さらに地元にある医療福祉専門学校や特別支援学校と連携し3年生の選択授業で出前講義を行うなどして、地域に貢献できる生徒の育成に努めた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

本校は、岐阜県教育委員会から平成29年度より「地域連携による活力ある高校づくり推進事業」の指定を受け、地元県議会議員や町長、教育長、中学校長、商工会会長、学校評議員、育友会長、同窓会長を委員とする「岐阜県立池田高等学校学校活性化協議会」を設置したが、本校のユネスコスクールとしての活動が、地域との連携を具体的に進めるとともに、地域住民からも好感をもって受け止められ感謝されているとの評価をいただき、今後一層の特色ある高等学校づくりが進むよう期待されている。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

- ・大垣ユネスコ協会主催の「ESDパスポート体験発表会」に参加し、今年度の本校の取組を発表するとともに、ESDボランを達成した多数の本校生徒が表彰を受けた。
- ・地元池田町が開催した「池田町教育事例発表会」や「支え合い・助け合いフォーラムまるっといけだ」に生徒がESD活動について発表した。
- ・「環境教育」の分野では、家庭クラブが地元の環境保全について研究と住民への啓発活動を行い、それを岐阜県家庭クラブ総会、三重県で開かれた発表会や、関西大学で開催された発表会でも発表し高い評価を得た。
- ・また、本校が行うESD活動は、すべて学校のホームページに掲載し、毎日更新していることから、閲覧件数が増加している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

- ・本校は、平成25年度より地元のサンビレッジ国際医療福祉専門学校と連携し、本校の選択教科での講義と演習、福祉施設での実習を行っている。
- ・また、11月に地元にある岐阜経済大学と大垣女子短期大学と教育連携による協定を締結し、同学教授等が本校で出前講義を行った。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

- ・大垣ユネスコ協会と連携し、同地区の中学校・高等学校のユネスコスクールや申請校とも「ＥＳＤパスポート体験発表会」の機会に交流を行っている。
- ・また、本年度は 10 月に宮城県仙台二華中学校・高等学校、11 月に岡山県立和気閑谷高等学校、岡山県立林野高等学校のユネスコスクール 3 校を本校職員がそれぞれ訪問し、地域に根ざした特色あるＥＳＤの取組について視察を行った。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

- ・地元大学との高大連携の教育連携協定を結び、今後、地域の課題を解決する課題解決型学習を推進する基礎を築いた。
- ・ＥＳＤカレンダーを作成し、教育課程とＥＳＤを横断的・総合的に結び付け、ＥＳＤを強く意識した教育実践を行う体勢づくりに努めた。
- ・地元の行事や活動に積極的に参加し、発表したりボランティアとして協力し、地域に貢献する意欲や態度を体験として育むことができた。
- ・県内の国際教育に関する発表会や地元池田町が主催する海外派遣事業に積極的に参加するとともに、英語検定の資格取得も奨励し、国際感覚を養成することに努めた。

（３）平成 30 年度の活動計画

- ・次期学習指導要領において、「主体的、対話的で深い学習（アクティブラーニング）」が示されることも踏まえ、本校では平成 30 年度から現行の総合的な学習の時間に、「探求 ＥＳＤ」という本校独自の地域課題解決型学習の時間を設定する予定である。自分たちが暮らす地域の課題を見つけ、教育連携した大学・短大の教授等による指導を受けたり、地域の介護福祉専門学校の先生による演習や講義を受けたりして課題の解決方法を学び解決策を検討し、地域の池田町や神戸町や岐阜県に対し、地域を活性化させ魅力ある町づくりをするための提言を生徒自らが発信するという教育実践を構想している。
- ・これまで 2 年間行ってきたＥＳＤ活動の実践をデジタル・アーカイブとして保存するとともに、今後の活動を継続して記録する。そして、それらを生きた教材として「探求 ＥＳＤ」で活用し、進路学習や教科学習に生かすために、ＩＣＴ機器を活用した学習環境を整えたいと考えている。具体的には、活動を記録するための記憶機器の設置や、授業やフィールドワークで活用する i p a d と、情報を共有するための各教室へのプロジェクター等のＩＣＴ機器の整備を構想している。